

平成28年度老人保健健康増進等事業

＜地域の認知症ケアの拠点としての認知症グループホームのあり方に関する調査研究事業＞  
＜株式会社 三菱総合研究所＞

## 1. 事業目的

認知症グループホームは、「新オレンジプラン」において明示された役割をはじめとして、地域における認知症ケアの拠点として、その機能を地域に展開していくことが期待されている。認知症グループホームがこれまで果たしてきた役割や機能を整理しつつ、今後のあり方についての討議を通じ、今後の認知症グループホームのあり方についての示唆を得ることを目的とした。

## 2. 事業概要

本調査研究事業は、大きく二つの観点から検討を実施した。一つは「認知症グループホームの課題の整理」で、既存の先行研究等を用いて、認知症グループホームにおけるケアの現状等について把握、整理を行い、その結果をもとに有識者会議において認知症グループホームの実態について、①認知症グループホーム「ケア」の特色、②地域の中での認知症グループホーム、③認知症グループホームというサービスの観点から課題の洗い出しを実施した。もう一つは「今後の認知症グループホームのあり方の検討、とりまとめ」で、先に整理した課題について、有識者会議での議論をもとに、今後の認知症グループホームのあり方及び将来的な介護保険制度における位置づけ等について検討、整理を行うとともに、これらの課題を解決するための方策等のとりまとめを行い、報告書を作成した。

事業実施手法としては、認知症グループホームの置かれた課題や現状、今後に向けた取組み状況等に関する情報を収集するため、有識者会議による意見報告・討議を中心にテーマの検討を行った。有識者会議は、学識経験者、認知症グループホーム事業者、事業主団体等11名から構成し、計7回開催した。

## 3. 事業結果

認知症グループホームは地域の認知症ケアの拠点として、その機能を地域に展開していくことが期待されており、平成12年の制度創設時の702事業所から平成27年には13,003事業所へと事業所数を増加させてきた。

有識者会議での報告・討議では、認知症グループホームがこれまで果たし、今後も担っていくべき機能・役割について、認知症グループホームが提供しているケアの特色として、「利用者の尊厳・自己決定権を尊重したケア」、「共同生活という家庭的な環境によるケア」、「一人ひとりのニーズや状態に対応したケア」、「利用者の生活の継続性と自立と自信」等が挙げられた。また、地域の中での認知症グループホームが果たしてきた機能・役割として、「地域社会の一員としてのグループホーム」、「地域における認知症の相談・支援の拠点としての役割」、「地域の人材育成、人材交流の拠点としての役割」、「認知症の人が安心できる地域づくり」等が挙げられた。

認知症グループホームをめぐる環境変化として、少子高齢化の進展、高齢者人口及び認知症高齢者数の増加、介護人材不足の危惧、高齢者向け住まい等の増加とその中での認知症グループホームのサービス量の増加、認知症グループホーム利用者の医療ニーズ増加・重度化・重篤化、利用者の主介護者の状況の変化等について整理を行った。

こうした変化に応じた認知症グループホームの今後のあり方に関して、有識者会議では、多岐にわたる意見が提示され、討議を踏まえて最終的に「認知症グループホームの地域マネジメント力の強化」、「多様な地域のケアニーズへの対応力強化」、「生活を継続するための容態に応じた他機関との連携の促進」、「認知症グループホームサービスの質の向上と担保」、「認知症グループホームにおける人材の確保・定着・育成の加速」の5つの論点に整理された。